

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 11月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300741		
法人名	医療法人 北原会		
事業所名	グループホーム大野		
所在地	広島県廿日市市大野67番地1 (電話) 0829-56-3333		
自己評価作成日	平成30年10月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300741-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年11月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・山々に囲まれ静かな場所にあり、鳥のさえずりや四季折々の草花を楽しむことができます。・当ホームの理念である「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」をキーワードに穏やかな生活が送れるように、日々取り組んでいます。・季節の行事にあわせた、手作りの食事を提供しています。・個々の思いに寄り添い、その人にあったプログラムの工夫をしています。・経営母体が病院なので日頃より、気軽に医療相談が出来、緊急時の対応も可能です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>緑豊かな廿日市の山手にあり、爽やかな空気が溢れる環境の中、長年にわたり併設病院と共に地域に溶け込み繋がりを深めつつ利用者の穏やかな喜びのある生活を育んでいる。旬の食材を活かした春野菜の料理やクリスマスにはリース作りなど、季節や自然を感じる温もりのあるケアに努め、笑いヨガ体操・リハビリ体操・歌レクなど個々に合わせたアクティビティの充実を図り、職員と共に活動的な日常を楽しんでいる。トライアスロンの選手が沿道を駆け抜ける姿を二階の窓から応援するのも年中行事のひとつとなっている。母体が医療法人であり、看護面のサポート体制の強化やチームケアの向上に努め、利用者・家族が安心できる我が家のような環境整備に尽力している事業所である。</p>

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」をキーワードに、開所当時から独自の理念を作成している。その理念を玄関・廊下に掲示するとともに、全職員が名札の中に理念カードを入れいつでも振り返りが出来るように心がけている。	利用者の気持ちを理解し、安らぎと喜びのある日々が送れるよう家庭的な雰囲気づくりと共に、地域に愛され信頼される拠点であるよう職員間で意識統一に努めている。理念を具体化し、職員の取り組みやすい工夫に繋げ振り返りも行ない日々のケアに活かしている。	理念を基に事業所の年間目標や職員の個人目標などを定め、その達成度を定期的に見直し職員間でより深く共有を図り、実践につなげるよう更なる取り組みに期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域に根ざしたホーム作りを目指しているが、敬老会など地域の行事には参加できていない状況である。しかし、はつらつボランティア等のホームへの受け入れ体制は進んでいる。	地域包括支援センター職員の協力を得ながら、地域の民生委員や老人会等との関わりを持ち、見学など気軽に訪問できるようなシステムづくりを目指している。事業所開催行事の充実にも力を入れ地域関係者共々楽しめる取り組みに重点を置いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が、日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を、ホーム内で話し合う事は行っているが、実際に外部で広めていくまでには至っていない。今後、どういった形で進めていくか検討していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をもとにサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者の状況、行事などについて報告をするともに、家族をはじめ出席者と積極的に意見交換をしている。また、議事録は今後の方針に活用している。	当会議には、家族・行政関係者・協力医療機関職員・事業所職員など多数のメンバーにより、現状や行事報告及び意見交換を行なっている。地域との繋がりがやチームケアの推進ほかテーマも豊富で、災害時対策に配慮した避難方法など、様々な事態への対処について話し合える機会として活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席して、事例検討などで意見交換をし、高齢者支援について考える機会を持ち、サービスの質の向上につなげている。また、運営推進会議でも積極的に情報交換をしている。	地域ケア会議での情報を運営推進会議に取り入れ、職員間で周知共有し日々のサービスに反映させるよう努めている。地域包括支援センター案内の研修や集会に積極的に参加し、オレンジプランに関する協力関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	認知症介護実践研修、権利擁護の研修などに積極的に参加し、他の職員へ伝達講習することで、身体拘束の弊害、拘束廃止にむけた意識づけをしている。やむを得ず身体拘束をする場合は、身体拘束適正化委員会で協議をしている。	法人内外の研修はもとより、言葉による拘束を含め身体拘束廃止に向けた取り組みを強化している。毎月、身体拘束適正化委員会でケース検討し、離床センサー活用などなるべく制約を加えない見守りによる支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加したり、伝達講習で、虐待について学ぶ機会を持ち、誰もが虐待に対して気づきをもてるように、カンファレンスで意見交換をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	高齢者虐待、権利擁護、成年後見制度などの研修には出来るかぎり参加し、全職員に意識づけを行なうとともに、家族にも分かり易く説明し、必要に応じて制度の利用をスムーズに出来るように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明をし確認を行っており、規約の改正等があれば、必ず書面を作成し、ご家族へ説明・確認を行っている。また、疑問や質問には納得がいくまで丁寧に説明をするように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の訴えには、話しやすい環境のもと傾聴をし、管理者を中心に対応策を検討している。家族へは、面会時に希望・要望を聞き、随時対応すると共に、外部の相談窓口の紹介も行っている。また、目安箱の設置で、直接面談、相談しにくい方にも配慮をしている。	訪れやすく話しやすい環境整備に努め、主に面会時・イベント時で意見や要望を伺い、迅速な対応を心がけている。利用者の写真と共に日頃の様子を手紙で送り、歌やゲームを取り入れた活動や行事への参加を促すなど家族との円滑な交流に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングや昼休みなど、自由に意見や提案を聞く機会を作っている。また、管理者が個別面接で自由に話せる機会や電話での相談も受け付け、意見については改善に向けた取り組みに活かしている。	先輩職員が新人スタッフに援助者の心構え・介助法などを指導しスキルアップを図っている。個別面談や相談に応じつつモチベーションの維持に努め、ミーティングや日々の業務中でも気づきを話し合っている。たこ焼きパーティをする意見を取り入れるなど、スムーズな関係性を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員ひとり一人、勤務体制・契約条件が異なるため、それぞれに応じた職場環境を整えている。また、個々にあった研修を勧めて、向上心を持って仕事に取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力の段階に応じて、先輩職員の指導をつけて、入居者も職員も不安が解消出来るようにしている。また、研修には積極的に参加し、情報を共有して、業務がスムーズに行えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や地域ケア会議に参加し、同業者との交流を図っている。また、ホーム見学に来られた時にも情報交換を行い、サービスの質の向上に向けて意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談時や自宅を訪問した際には、本人、家族と別々に話を聞くと共に、入居後も、しっかり本人の思いを聴き、出来るだけ早く信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。	入居相談時から、困っていること、不安に思っていることなどを傾聴し、ねぎらいの言葉を伝え、話し易い環境作りをすると共に、入居後もサポート出来るよう信頼関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちを持ち、来所や電話相談をされた家族に、いろいろなサービスの情報提供をし、今、本人に必要なサービスは何か、家族・多職種の方々の意見も聴きながら連携を取り、一緒に考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来る事は自身で行ってもらい、時には一緒に時間を過ごし、よりよい関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との距離ができないように、職員のできること、家族の協力ができないことを共有し、本人が不安なく生活出来るように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の面会支援や、家族への電話支援で、関係が途切れないようにしているが、馴染みの場所への外出は出来ていない。	隣接病院のスタッフや関係者などが来訪し、つながりを深めている。高齢化による難しさもあるが、これまでの生活やかけがえのない関係性をつなぐ工夫を重ねている。ボランティアの受け入れや働きかけも視野に入れ取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で話をしている際、必要に応じて職員が間に入り会話のサポートをするなど、個々の性格に合った支援を心がけている。また、席の配置にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退居することになった家族に対しても、引き続き気軽に立寄れるように声かけをしたり、時には相談に乗っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員に直接頼みごとをされる入居者もおられるが、中には言い出しにくい方もおられるので、会話の中から思いを引き出したり、時には家族からも情報提供を受け職員同士、情報を共有している。	日頃のさりげない会話やふれあいの中で個々の思いや意向を汲み取り、生活歴や趣味趣向を加味しながらアセスメントにつなげている。入浴拒否のあった利用者には声掛けを工夫し配慮を続けた結果、シャワー浴ができるようになるなどの思いに寄り添った改善例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	昔の話など、話しの内容を細かく記録に残し、その方の生い立ちや育ってきた環境を理解し、支援に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居相談時のアセスメント、基本情報、ケアプランをしっかりと理解して、本人の対応にあたるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護支援専門員を中心に、本人、家族、必要な関係者と話し合い、6ヶ月毎に介護計画書を作成している。身体状況などに変化があり、介護計画に記載した支援ができなくなった場合には、速やかに担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。</p>	<p>本人・家族・医療関係者ほか専門分野の意見も取り入れ、生活機能の維持や楽しめる活動につながる各々のニーズに合わせたプラン作りに努めている。担当者会議で随時カンファレンスを行い、各項目ごとの見直しを重ねその人らしく暮らせる計画作成に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常の様子は個別に記録に残し、その情報は職員間で共有している。また、その情報を元に意見交換を行い、介護計画に活かせるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医療ニーズに対しては、協力医療機関との協力体制ができているため、速やかな対応ができるが、地域との連携や他のサービスとの調整には、不十分なところがある</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域との交流が少なく、家族との交流が中心となっているため、入所前の地域とのつながりを継続していく工夫の必要性を感じている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、家族の意向をもとに、入居時に今後の主治医を確認し、連携がとれるようにしている。また、状態の変化に応じて協力医療機関の医師の往診や、他科受診の選択も出来るようにしている。</p>	<p>週三回主治医の訪問診療をはじめ、看護師のサポートほか医療支援体制が整っている。服薬管理に努め、感染症予防対策として空調調整や水分補給に留意している。体調コントロールに加え緊急時対策を完備し利用者・家族の安心感につなげるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職の申し送りや相談、気づきを通じて、看護師が本人の状態を適確に医師に伝え、症状が悪化しないように早めの対策をとっている。また、24時間いつでも連絡がとれる体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供して、本人の生活スタイルが大きく変化しないように病院と連携している。また、面会に出向いたり、退院が近づくと退院後の生活がスムーズに送れるように、情報の共有をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人・家族・主治医で重度化した場合の話し合いの場を設けている。また、状態に変化があった場合にも、家族、主治医と協議し、看護師、介護職と連携しながら支援に取り組んでいる。	看取りは行わない方針であるが、重度化した場合、家族・関係者とよく話し合い方向性を見極め個々の思いや要望に沿った支援に努めている。隣接する医療機関への移設など、連携が充実しバックアップ体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に応急手当や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は、協力病院の医師の応援体制や管理者、看護師と緊急連絡がつくようになっており、全職員が協力して役割分担をし、応急手当が出来るように工夫をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の協力病院と定期的に消防訓練を行い、全職員が入居者を安全に避難できる方法を習得している。また、災害時には協力病院の近隣職員の応援体制が出来ている。	年二回併設病院と合同で総合防災訓練を実施している。正しい避難経路や利用者の誘導などを確認し、近隣からの救援対策や緊急連絡方法について職員間で意識を深めている。法人として災害時マニュアルの整備や対策について今一度見直し、安全確保への体制づくりに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の尊厳・プライバシーを大切にしてい、個々に合わせた対応をしている。また、個人情報の取り扱いに関しても、研修の参加や、職員間のミーティングで確認している。	自尊心やプライバシーを損ねないように利用者へ敬意を払い、声掛けや接遇に留意している。面会者の手続き方法をノートから面会カードに切り替えるなど、写真の取扱いを含めプライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望が自由に話せる雰囲気作りに努めている。思いが上手く伝えられない時は、いろいろな状況を考慮しながら、本人の気持ちを汲み取る事に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースに合わせた支援を心がけている。また、生活習慣を把握し、スムーズに行動が出来るような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意向により、家族と出かけたり、定期的な訪問理容を利用したりしている。また、なごやかな雰囲気の中で、その方の個性にあった服を選んだり化粧などの相談にのっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査をして、苦手な食材の変更や、味付け・形態を工夫している。役割の一つとしてテーブル拭き等入居者に手伝ってもらう事はあるが、準備や片付けは職員が行っている。	旬の野菜や食材で職員が個々の嗜好・味付けを考慮した手作りの提供で、美味しく食べられるよう工夫を重ねている。季節行事の献立作りや敬老会にはちらし寿司など利用者と共に楽しめる時間として、声掛けや談笑を交えた和やかな雰囲気になるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分補給は毎日記録に残しており、必要に応じて、協力医療機関の医師や管理栄養士に相談している。水分摂取は、入浴後やおやつ時にも積極的に勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床後と毎食後、1日4回の口腔ケアを職員の誘導で行っている。一人での歯磨きが難しい入居者には声かけ、介助をしている。義歯は専用の洗浄剤で、毎夕食後消毒している。必要に応じて、訪問歯科や外部歯科医の受診を勧めることもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じてトイレ誘導表を作成し、職員で共有し、時間を見て声かけ・誘導を行っている。夜間はP-トイレを使用する方もいるが、個々で安心して排泄が出来るように支援している。	個々のパターンや時間など細やかな排泄チェックシートを基に、なるべくトイレ誘導し自然な排泄を促している。水分補給や便秘解消食材の工夫に加え、歩くこと・軽度の体操など、下肢筋力の維持に努め、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録表を作成しており、排便の無い日が続くと看護師に相談し、水分補給を促したり、動く事を勧めている。看護師は、腹部の聴診や体調を見ながら医師に報告し、指示や助言を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴日を決めているが、本人の希望や体調にあわせて、曜日変更や清拭、足浴などの対応をしている。体調不良などで入浴できない時も、曜日変更や清拭対応をしている。	その日の心身状態に合わせて柔軟な対応で入浴支援をしている。リラックスタイムとしてゆっくり出来るよう声掛けや雰囲気づくりに配慮し、足浴・清拭対応を含め清潔や衛生面の保持に努めている。固形石鹸を使用し入浴後は保湿クリームで肌の状態を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	特に就寝時間は設けておらず、 個々に任せている。快適に眠る ことができるように部屋の冷暖房 や、明かりにも配慮している。 昼寝も要望に応じて対応して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	個々の服薬管理表を作成して、 飲み忘れ防止に努めると共に、 処方された薬は申し送りノート や個々のケース記録に、理由や 用法、副作用などの注意点を記 入し、情報が共有出来るように している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	塗り絵、パズル、歌など、好き な事に取り組んでもらうと同時 に、季節の行事を取り入れて、 変化のある生活支援を心がけて いる。また、洗濯物干し、洗濯 物たたみ等の役割を持ってもら い、ひとり一人の個性を活かす ような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	暖かく天気の良い日にはホーム の中庭や隣接する協力医療機関 の中庭に出向き、桜や紅葉など を楽しんでいる。全員ではない が、家族との外出も度々ある。 しかし、ホーム全体で車を使用 しての積極的な外出は出来てい ない状況。今後検討していきたい。	職員と共に、施設の広い敷地を 散歩したり庭の花の手入れなど で気分転換や外気浴に努めてい る。傍にある桜を愛でるなど四 季の移ろいを感じ取れる環境に ある。家族の協力のもと個別外 出のアイデアを職員間で取りま とめている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金の 所持したり使えるように支援し ている。	本人の状況や希望に応じて、自 己管理の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個別対応をしているが、連絡が難しい利用者には管理者が代行している。手紙は自由にやり取りの出来る支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	絵画、入居者の作品、行事の写真の展示を行い、明るく心地よい空間作りを心がけている。また、空調や照明は天候や時間に応じて調整している。	広く明るいきりびんぐからは山の緑や季節の草花の育つ様子が見える。利用者の手作り作品・季節行事の写真などを飾り付け、家庭的でゆったり過ごせるスペースづくりを心がけている。廊下も広くゆとりを持たせ空調設備で室温管理に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールのテーブルが広いので、一人で新聞や雑誌を広げて読んだり、パズルを楽しんだり、入居者同士で会話をしたり、席の配置や誘導で、状況に応じて自由に過ごせる居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、思い思いの空間作りの支援をしている。	それぞれが落ち着いて過ごせるよう趣味の品や思い出の写真などを飾り、個性を大切にした居室となっている。整容や口腔ケアの声掛けにも気配りし、入口には識別しやすい表札を掲げるなど安全で自由に寛げる工夫を凝らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、ホールに手摺が付いており、安全に移動でき、自立した生活が送れるように工夫をしている。また、ひとり一人の居室には大きな表札をつけ、分かり易いようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「家庭的な雰囲気作り」「傾聴」「地域に愛されるホーム作り」をキーワードに、開所当時から独自の理念を作成している。その理念を玄関・廊下に掲示するとともに、全職員が名札の中に理念カードを入れいつでも振り返りが出来るように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域に根ざしたホーム作りを目指しているが、敬老会など地域の行事には参加できていない状況である。しかし、はつらつボランティア等のホームへの受け入れ体制は進んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員が、日頃の業務や研修などで培ってきた知識や技術を、ホーム内で話し合う事は行っているが、実際に外部で広めていくまでには至っていない。今後、こういった形で進めていくか検討していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者の状況、行事などについて報告をするともに、家族をはじめ出席者と積極的に意見交換をしている。また、議事録は今後の方針に活用している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席して、事例検討などで意見交換をし、高齢者支援について考える機会を持ち、サービスの質の向上につなげている。また、運営推進会議でも積極的に情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	認知症介護実践研修、権利擁護の研修などに積極的に参加し、他の職員へ伝達講習することで、身体拘束の弊害、拘束廃止にむけた意識づけをしている。やむを得ず身体拘束をする場合は、身体拘束適正化委員会で協議をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加したり、伝達講習で、虐待について学ぶ機会を持ち、誰もが虐待に対して気づきをもてるように、カンファレンスで意見交換をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	高齢者虐待、権利擁護、成年後見制度などの研修には出来るかぎり参加し、全職員に意識づけを行なうとともに、家族にも分かり易く説明し、必要に応じて制度の利用をスムーズに出来るように支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に詳しく説明をし確認を行っており、規約の改正等があれば、必ず書面を作成し、ご家族へ説明・確認を行っている。また、疑問や質問には納得がいくまで丁寧に説明をするように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者の訴えには、話しやすい環境のもと傾聴をし、管理者を中心に対応策を検討している。家族へは、面会時に希望・要望を聞き、随時対応すると共に、外部の相談窓口の紹介も行っている。また、目安箱の設置で、直接面談、相談しにくい方にも配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングや昼休みなど、自由に意見や提案を聞く機会を作っている。また、管理者が個別面接で自由に話せる機会や電話での相談も受け付け、意見については改善に向けた取り組みに活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員ひとり一人、勤務体制・契約条件が異なるため、それぞれに応じた職場環境を整えている。また、個々にあった研修を勧めて、向上心を持って仕事に取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の能力の段階に応じて、先輩職員の指導をつけて、入居者も職員も不安が解消出来るようにしている。また、研修には積極的に参加し、情報を共有して、業務がスムーズに行えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や地域ケア会議に参加し、同業者との交流を図っている。また、ホーム見学に来られた時にも情報交換を行い、サービスの質の向上に向けて意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談時や自宅を訪問した際には、本人、家族と別々に話を聞くと共に、入居後も、しっかり本人の思いを聴き、出来るだけ早く信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時から、困っていること、不安に思っていることなどを傾聴し、ねぎらいの言葉を伝え、話し易い環境作りをすると共に、入居後もサポート出来るよう信頼関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	不安な気持ちを持ち、来所や電話相談をされた家族に、いろいろなサービスの情報提供をし、今、本人に必要なサービスは何か、家族・多職種の方々の意見も聴きながら連携を取り、一緒に考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として入居者を敬い、出来る事は自身で行ってもらい、時には一緒に時間を過ごし、よりよい関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したことで、家族との距離ができないように、職員のできることを共有し、本人が不安なく生活出来るように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人の面会支援や、家族への電話支援で、関係が途切れないようにしているが、馴染みの場所への外出は出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で話をしている際、必要に応じて職員が間に入り会話のサポートをするなど、個々の性格に合った支援を心がけている。また、席の配置にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事情があつて退居することになった家族に対しても、引き続き気軽に立寄れるように声かけをしたり、時には相談に乗っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員に直接頼みごとをされる入居者もおられるが、中には言い出しにくい方もおられるので、会話の中から思いを引き出したり、時には家族からも情報提供を受け職員同士、情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	昔の話など、話しの内容を細かく記録に残し、その方の生い立ちや育ってきた環境を理解し、支援に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居相談時のアセスメント、基本情報、ケアプランをしっかりと理解して、本人の対応にあたるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員を中心に、本人、家族、必要な関係者と話し合い、6ヶ月毎に介護計画書を作成している。身体状況などに変化があり、介護計画に記載した支援ができなくなった場合には、速やかに担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子は個別に記録に残し、その情報は職員間で共有している。また、その情報を元に意見交換を行い、介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療ニーズに対しては、協力医療機関との協力体制ができているため、速やかな対応ができるが、地域との連携や他のサービスとの調整には、不十分なところがある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域との交流が少なく、家族との交流が中心となっているため、入所前の地域とのつながりを継続していく工夫の必要性を感じている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の意向をもとに、入居時に今後の主治医を確認し、連携がとれるようにしている。また、状態の変化に応じて協力医療機関の医師の往診や、他科受診の選択も出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職の申し送りや相談、気づきを通じて、看護師が本人の状態を適確に医師に伝え、症状が悪化しないように早めの対策をとっている。また、24時間いつでも連絡がとれる体制もとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には看護情報提供書や介護計画書など必要な情報を提供して、本人の生活スタイルが大きく変化しないように病院と連携している。また、面会に出向いたり、退院が近づくと退院後の生活がスムーズに送れるように、情報の共有をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人・家族・主治医で重度化した場合の話し合いの場を設けている。また、状態に変化があった場合にも、家族、主治医と協議し、看護師、介護職と連携しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に応急手当や初期対応の訓練は行っていないが、急変時や事故発生時は、協力病院の医師の応援体制や管理者、看護師と緊急連絡がつくようになっており、全職員が協力して役割分担をし、応急手当が出来るように工夫をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の協力病院と定期的に消防訓練を行い、全職員が入居者を安全に避難できる方法を習得している。また、災害時には協力病院の近隣職員の応援体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の尊厳・プライバシーを大切にしてい、個々に合わせた対応をしている。また、個人情報の取り扱いに関しても、研修の参加や、職員間のミーティングで確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望が自由に話せる雰囲気作りに努めている。思いが上手く伝えられない時は、いろいろな状況を考慮しながら、本人の気持ちを汲み取る事に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースに合わせた支援を心がけている。また、生活習慣を把握し、スムーズに行動が出来るような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意向により、家族と出かけたり、定期的な訪問理容を利用したりしている。また、なごやかな雰囲気の中で、その方の個性にあった服を選んだり化粧などの相談にのっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査をして、苦手な食材の変更や、味付け・形態を工夫している。役割の一つとしてテーブル拭き等入居者に手伝ってもらう事はあるが、準備や片付けは職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や水分補給は毎日記録に残しており、必要に応じて、協力医療機関の医師や管理栄養士に相談している。水分摂取は、入浴後やおやつ時にも積極的に勧めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>起床後と毎食後、1日4回の口腔ケアを職員の誘導で行っている。一人での歯磨きが難しい入居者には声かけ、介助をしている。義歯は専用の洗浄剤で、毎夕食後消毒している。必要に応じて、訪問歯科や外部歯科医の受診を勧めることもある。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>必要に応じてトイレ誘導表を作成し、職員で共有し、時間を見て声かけ・誘導を行っている。夜間はP-トイレを使用する方もいるが、個々で安心して排泄が出来るように支援している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便記録表を作成しており、排便の無い日が続くと看護師に相談し、水分補給を促したり、動く事を勧めている。看護師は、腹部の聴診や体調を見ながら医師に報告し、指示や助言を受けている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日を決めているが、本人の希望や体調にあわせて、曜日変更や清拭、足浴などの対応をしている。体調不良などで入浴できない時も、曜日変更や清拭対応をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	特に就寝時間は設けておらず、個々に任せている。快適に眠ることができるように部屋の冷暖房や、明かりにも配慮している。昼寝も要望に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服薬管理表を作成して、飲み忘れ防止に努めると共に、処方された薬は申し送りノートや個々のケース記録に、理由や用法、副作用などの注意点を記入し、情報が共有出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	塗り絵、パズル、歌など、好きな事に取り組んでもらうと同時に、季節の行事を取り入れて、変化のある生活支援を心がけている。また、洗濯物干し、洗濯物たたみ等の役割を持ってもらい、ひとり一人の個性が活かせるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	暖かく天気の良い日にはホームの中庭や隣接する協力医療機関の中庭に出向き、桜や紅葉などを楽しんでいる。全員ではないが、家族との外出も度々ある。しかし、ホーム全体で車を使用しているの積極的な外出は出来ていない状況。今後検討していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の状況や希望に応じて、自己管理の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個別対応をしているが、連絡が難しい利用者には管理者が代行している。手紙は自由にやり取りの出来る支援をしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	絵画、入居者の作品、行事の写真の展示を行い、明るく心地よい空間作りを心がけている。また、空調や照明は天候や時間に応じて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールのテーブルが広いので、一人で新聞や雑誌を広げて読んだり、パズルを楽しんだり、入居者同士で会話をしたり、席の配置や誘導で、状況に応じて自由に過ごせる居場所作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具を持ち込んだり、家族写真を飾ったりして、思い思いの空間作りの支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	廊下、トイレ、ホールに手摺が付いており、安全に移動でき、自立した生活を送れるように工夫をしている。また、ひとり一人の居室には大きな表札をつけ、分かり易いようにしている。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム大野

作成日 平成30年12月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	①理念を基に年間の目標を立てる。	理念を基に今年の目標を設定し、スタッフルームに掲示し半年に1回、達成度の確認を行う。	H30年12月～ H31年11月末
2			②理念の唱和ができていないので再開する。	日勤者全員での理念の唱和は難しいが、申し送り前に同席できる職員で唱和をしていく。	H30年12月～ H31年11月末
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。